

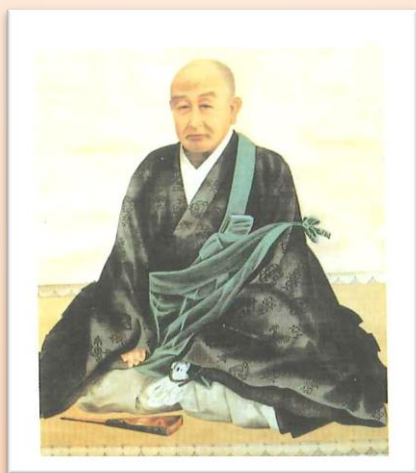
# 歴民だより

歴史民俗資料館

令和2年度 3月号 No.89

## 郷土の先人紹介

身をもって仏教を守り広めた ほそかわ せんがん 細川 千巖



▲細川千巖 (1834~1897)

細川千巖は、江戸時代の天保5（1834）年、南條村の農家に生まれました。

幼いころから、千巖は頭が良く、はきはきしており言葉も達者でした。また、行動もしっかりとしていました。そこで、このまま農家の仕事で一生を終わらせるのは惜しいと家族で話し合った結果、僧侶にするのが一番いいということになりました。

それで、千巖が9歳の時、南條の興久寺こうきゅうじに入り、僧になるための勉強を始めました。その後、15歳のときに京都にある「高倉学寮」（今のこうきゅうじ大谷大学）に入り、仏教について勉強を重ねました。

そして、31歳の時、福岡県にある伯東寺はくとうじの住職となりました。

明治の初め、廃仏毀釈はいぶつきしゃく※が過激になると、千巖は仏教を守りたいと政府に命がけで訴えました。その甲斐かいあって仏の道を説いてまわることを許されました。その後、学問僧としての最高位である講師こうしに就くまでになりました。

※はいぶつきしゃく廃仏毀釈・・・政府による寺院や仏教に関する書物及び仏像をなくそうとする仏教排斥運動。

ハートピア安八

- 歴史民俗資料館 -

住 所：岐阜県安八郡安八町氷取30

お問合せ：0584-63-1515